

二本松市立安達中学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：男らしさ・女らしさ そして、自分らしさ
学年：第2学年

実施状況

〈ねらい〉

男女の「らしさ」からそれぞれのよさとともに性差を超えた「自分らしさ」の大切さに気づくことができる。

〈授業内容〉

- 10個の「男女のイメージや固定概念にとらわれた具体的な事例」をカードで示し、立場を明らかにしてそれに対する考え方をグループで話し合わせた。
- グループで問題となった点について全体で取り上げ、男女に抱くイメージやそのことにこだわらない「その人らしさ」を尊重する大切さについて考えた。
- 本時の話し合いで思ったこと、新たに気づいたことについて感想をまとめた。



児童・生徒の感想

- 今日の授業で、あらためて「男らしさ」「女らしさ」は性別が違うことや見た目が違うということとは関係ないのではないかと思った。個性や自分のやりたいことを「男だから」「女だから」というイメージでこわしてしまうのは変だと思う。一人一人の個性や好きなことを尊重することを大にしたいと思った。
- 男女には特長もあるので、男らしさ・女らしさも大切だけど、いちいちそれに縛られる必要はないと思う。
- 男の人が編み物をしたりあかいTシャツを着ても変じゃないのかもしれないと思った。

参観者の感想

- 私たちの身の回りで起きた日常的な出来事の中にも、「男だったら…」「女らしく…」など、男女の在り方や役割に対するそれぞれのイメージがあることを、カードに書かれた10個の事例を「肯定」「否定」「どちらともいえない」という立場から話し合う場を設け、意見交流できることは、性差を配慮した上で互いのよさと共にそれを越えた「自分らしさ」を考えるよい機会となっていた。
- 自分の身近なところに目を向け、その中で自己決定ができる内容になっていたので、学級活動のねらいに合致していた。
- 話し合いの中で生徒一人一人の思いが語られていた。教科や道徳の時間の学習との関連で、問題になっている事象の背景や立場についても話し合うことで視野を広げることもできる。

指導者の感想

- 身近な事例を取り上げたことや男女混合のグループで話し合わせたことで、現代社会にある男女に対する固定概念の現状に気づいたり、興味関心を深めたりする生徒が多かった。
- 男女の性差を踏まえた上で平等な立場や、よりよい社会生活を送るために協力する姿、また、その根底にある個人のよさや個性の尊重について考えるきっかけ作りになったと思う。
- 今後は、現代における社会的な背景や人権・人種問題等に視野を広げていけるように、道徳の時間や学級活動とも関連させ、考える機会を設けていけたらと思う。